

# 「生活情報の活用」におけるマークに関する学習の課題

渡瀬 典子

岩手大学教育学部

## Issues on the Materials Related to Labels and Marks in the Utilization of Information for Daily Life

Noriko WATASE, *Iwate University, Faculty of Education*

### 1. はじめに

今世紀に入り、生活関連の様々な施策で新自由主義を標榜する変化が現れている。例えば消費者政策では、平成16(2004)年に「消費者保護基本法」の「保護」の文字を取った名称である「消費者基本法」が成立した。この名が示すように、「消費者基本法」の基本理念が消費者の「保護」から「権利尊重」、「自立支援」に対し重心が置かれるようになった。同法第17条では、消費者が市場原理主義で競争志向的な経済体制の中で「情報弱者」にならないために、「学校、地域、家庭、職域その他の様々な場を通じて消費生活に関する教育を充実する<sup>1)</sup>」国・地方自治体の責務を明示した。すなわち、生涯に渡る消費者教育を受ける機会とシステムの提供が、国・自治体が保障するセーフティネットの一つになり、「消費者教育」の機能強化が明確化された、と理解できる。

この動きを受け、国民生活審議会の消費者政策部会では『「自立した消費者」をめざして』という理念と2つの大きな目標(①消費生活に関して自ら進んで必要な知識を習得し、必要な情報を収集するなど自主的かつ合理的に行動できる消費者の育成と支援、②消費生活に関して、環境の保全及び知的財産権などの適正な保護に配慮する消費者の育成と支

援)に基づく「消費者教育の体系化」が検討された。また、同部会は国(文部科学省)の責務を根拠として、学校教育における消費者教育の推進を次期学習指導要領へいっそう盛り込むよう働きかけることを明言している<sup>2)</sup>。

消費生活に関する家庭科の目標は、1960年代から80年代に至る「消費者の権利」の拡大に伴い、「今日的な生産から消費、廃棄、環境までを見通すことのできる生活主体の形成<sup>3)</sup>」が目指されるようになった。この目標は、先に言及した消費者政策部会が提示した2つの大きな目標と重なる部分が多く、家庭科教育が「自立」と同時に「自律」できる消費者育成に、長年関わってきたことを示すものである。また、消費生活領域の年代ごとの授業実践の特徴について田結庄は、「1940・50年代は買い物教育、おこづかいの使い方、記帳が主」で、「1950年代の終わりから60年代にかけて、商品のついている表示とマークの授業が多くなってきた」と、当時の教育実践記録から分析した<sup>4)</sup>。表示・マークに関する学習は、現在においても、商品・サービスの情報(扱いの注意、品質保証、補償内容、材料の特徴、等)を読み解く力の育成のため、家庭科の授業の中で取り上げられ続けている。マーク・表示をはじめとする様々な生活情報を学ぶ意味は、消費者自らの権利保護、生活向上に役立てる方策を知ることのほかに、生活者として他者の権利や環境保全を慮る経験を積

(審査終了 2008年5月12日)

〒020-8550 盛岡市上田3-18-33 (勤務先)

むことにあるといえる。

また、国民生活審議会では各ライフステージ（「幼児期」「児童期（小学生）」「少年期（中学・高校生）」「成人期」「高齢期」）を縦軸に、4つの領域（「安全」「契約・取引」「情報」「環境」）に関する能力目標を横軸にとる「消費者教育の体系シート」を提案した<sup>5)</sup>。ここでも生活情報を活用する手立てとして、マークに関する学習で培う力が明示されている（表1）。初等・中等教育段階の「幼児期」から「少年期」について見ると、幼児期では他者からマークの情報を聞き、小学校では商品にマークがついていることに気づき、中・高等学校ではマークの意味が理解できる、という成長に応じた能力の育成が構想されている。「生涯にわたる」消費者教育という考え方を採るならば、学んだことが「成人期」、「高齢期」でも活用可能な力を初等・中等教育段階で定着させることが課題といえる。

そこで本研究では、家庭科教育の中で長きに渡り教材とされてきた生活情報の活用、とくに商品のマークに関する学習の扱いを概観するとともに（目的1）、マークに関する学習の目的の一つでもある長期的に「日常生活で活用できる知識の定着」状況について現状と課題を検討する（目的2）。

## II. 研究方法

前項の目的1（小・中・高等学校家庭科の教科書におけるマークに関する学習の扱いの変遷）と目的2（マークの意味の定着状況）を明らかにするために、以下に示す2つの研究方法をとった。

### 1. 家庭科教科書に掲載されたマーク

目的1を明らかにするため、高度経済成長期以降にあたる1970年代以降の家庭科教科書を分析対象とした。マークに関する内容は、マークの図柄だけでなく、本文や脚注で名称紹介が文字でなされることもあるが、本研究ではマークの図柄掲載で「記載された」と判断する。記載内容の変化を見るために、①長年にわたり家庭科教科書を発行し、②シェア率が高い、A社の教科書を用いる（小学校と中学校）。但し、高等学校「家庭一般」については、A社が調査対象期間中に教科書を発行しなかった時期があったので、C社の教科書を一部用いる。なお、A社の内容と比較するために、B社の教科書（2007年発行分のみ）も検討データに加える。分析に用いた教科書は引用文献の最後にまとめて掲載した。

### 2. マークの認知度に関する質問紙調査

次に目的2を検討するため、大学3,4年生40名（男子20名、女子20名）を対象に、マークの認知度に

表1 消費者教育の体系化（「領域別目標①」×「ライフステージ」）抜粋

領域別 ライフステージ	安全	契約・取引	情報	環境
幼児期	①安全な物を選んで正しく使えるように身近な人に聞くことができる。	①欲しい物を手に入れたり、やりたいことをするときによく考えることができる。	—	①身近な人に環境マークなど環境に関する情報を聞くことができる。
児童期 (小学生)	①(前略)身の回りの商品の安全に関するマークや品質表示に気づくことができる。	①身の回りの商品を買うときに必要性を考えた上で価格や品質を比較できる。	①情報の収集などの際に情報通信を適切に活用できる。	①身の回りの商品に環境に関するマークなどの情報があることに気づくことができる。
少年期 (中・高生)	①日用品の商品のマークや品質表示などの意味を理解し、集めた情報の中から安全な商品を選び適切な取扱ができる。	①日用品の商品を買うときに必要性や価格・品質などを比較検討して選択できる。	①情報通信の利便性を理解し、情報の収集・発信などの際に情報通信を適切に活用できる。	①日用品の商品のマークや品質表示などの意味を理解し、環境に配慮した商品を選ぶことができる。

(資料出所：内閣府国民生活局 2007.3)

表2 調査に用いたマーカー一覧

A1		A11	R100	B7		D1	
A2		A12		B8		D2	
A3		A13		B9		D3	
A4		A14		C1		D4	
A5		B1		C2		D5	
A6		B2		C3		E1	
A7		B3		C4		E2	
A8		B4		C5		E3	
A9		B5		C6		F1	
A10		B6		C7		F2	
				C8		F3	

A:主に環境に関する表示  
 B:主に食品に関する表示  
 C:(被服、住居など)生活用品に関する表示  
 D:安全性に関する表示  
 E:福祉関連の表示  
 F:情報通信関連の表示

関する質問紙調査を実施した（調査時期：2007年10月）。大学生を対象としたのは、小学校から高等学校までに家庭科で学んだマークに関する知識が長期的に見て、どのような部分で定着した／しなかったかを検討するためである。なお、高等学校の教科書は「家庭総合」を用いた。調査対象としたマークは、2007年に小・中・高等学校で使用されている家庭科教科書に掲載されたマークのうち42種類を抜粋した（表2）。表2の枠内に示されているアルファベットA～Fは、マークの用途に応じて分類し、各分類の説明は表2の下に示した。アルファベットの後につけられた番号は、各分類の通し番号である。

質問紙の内容は、調査対象のマークについて、①（そのマークを）見たことがあるか（実際にそのマークがついた商品を見たことがある／本やインターネットなどで紹介されているのを見た）② ①で「見たことがある」と回答した人には、そのマークについて知っている情報（マークの名前、マークがついている商品名など）、①で「見たことがない」と回答した人には、「マークのイメージ」をそれぞれ質問した。

### Ⅲ. 結果と考察

#### 1. 家庭科の教科書に登場するマーク

表3は、小学校の家庭科教科書に記載されたマークの種類一覧である。表の最上部にある○数字は学習指導要領改訂施行時期<⑥第6次（1971-79）、⑦7次（1980-91）、⑧8次（1992-2001）、⑨9次（2002—現在）>に使用されたことを意味する。第7次に相当する期間に発行された教科書は、1980年版以外に83年、86年版も見したが、同じ結果だったので表中には示していない。表中左端の番号は、表2と対応するが、表2以外のマークも含まれる。「取」とは、取扱い絵表示を意味する。

表3を見ると、A社の教科書に掲載されたマーク数は、第8次学習指導要領改訂施行前までは6つ（JASマーク、JISマーク、取扱い絵表示）だが、「環境基本法（1994）」以降の環境関連施策を受けて、第8次改訂期以降は環境に関するマークが登場し、掲載されるマーク数も12→15と増加した。

表3 小学校「家庭科」の教科書に記載されたマーク

○=マークの名称紹介あり \*マークの名称紹介あり（一部）  
△=マークの掲載のみ

学習指導要領改訂施行時期		⑥	⑦	⑧	⑨	
番号	発行年 マークの名前	A社				B社
		1977	1980	2000	2007	2007
A1	紙製容器包装識別マーク				△	
A2	プラスチック製容器包装識別マーク				△	
A3	スチール缶材質識別表示マーク			△	△	△
A4	アルミ缶材質識別表示マーク			△	△	△
A5	PETボトル識別表示マーク			△	△	△
A6	エコマーク			△	△	○
A7	グリーンマーク			△	△	○
A8	リターナルプルびんマーク				△	
B1	JASマーク	○	○	○	○	○
C1	JISマーク		○	○	○	○
取1	洗い方	*	*	△	*	*
取2	絞り方	*	*			*
取3	干し方	*	*	△	*	*
取4	アイロンの温度、かけ方	*	*	△	*	*
取5	塩素漂白の可否	△		△	*	
D3	PSEマーク					○
D4	SGマーク				○	○
D6	安全マーク			△		

本文の表現の変化を見ると、第8次改訂施行前は、「とりあつかい表示記号をみて、日常着はできるだけかんたんに洗たくできるものを選ぶ<sup>6)</sup>」、「いろいろなマークや表示が、なぜ品物につけられるようになったのだろうか、その理由を考えてみよう<sup>7)</sup>」等、やや難しい問いも併記されたが、第8次改訂以降の教科書では「（これらのマークが）どんなことを表しているでしょうか<sup>8)</sup>」と問いが易化した。そのほか、1986年版以降の教科書には「いろいろな品質表示やマークを集めてみよう<sup>9)</sup>」と、実際の授業や家庭学習への示唆が掲載された。

次に、中学校の家庭科教科書に掲載されたマークを見る（表4）。小学校の場合と同様に表の最上部には学習指導要領改訂施行時期を示した<⑤第5次（1972-80）、⑥6次（1981-92）、⑦7次（1993-2001）、⑧8次（2002—現在）>。該当教科書では、教科書で扱うマークの一覧が掲載され、該当領域でそれぞれ参照できるような領域横断的な構成をとって

表4 中学校「技術・家庭科」の教科書に記載されたマーク

(○=マークの名称紹介あり \*マークの名称紹介あり(一部) △=マークの掲載のみ)

学習指導要領改訂施行時期		⑤		⑥		⑦		⑧		学習指導要領改訂施行時期		⑤		⑥		⑦		⑧			
番号	発行年 マークの名称	A社					B社		番号	発行年 マークの名称	A社					B社					
		1972	1975	1978	1981	2000	2007	2007			1972	1975	1978	1981	2000	2007	2007				
A1	紙製容器包装識別マーク							○		取1	洗い方			△	*	○	○	○			
A2	プラスチック製容器包装識別マーク							○	○	取2	絞り方			△	*	○	○	○			
A3	スチール缶材質識別表示マーク						○	○	○	取3	干し方	○	○	*	*	○	○	○			
A4	アルミ缶材質識別表示マーク						○	○	○	取4	アイロンのかけ方	○	○	○	*	○	○	○			
A5	PETボトル識別表示マーク							○	○	取5	塩素漂白の可否						○	○	○		
A6	エコマーク						○	○	○	取6	ドライクリーニング	○	○		*	○	○	○			
A7	グリーンマーク						○	○	○	D1	SFマーク						○	○	○		
A9	PETボトルリサイクル推奨マーク							○		D2	PSCマーク							○	○		
A10	省エネ性マーク							○		D3	PSEマーク									○	
A11	再生紙使用マーク(アマーク)							○	○	D4	SGマーク						○	○	○		
A12	牛乳パック再利用マーク(ハックマーク)							○		D5	STマーク		○	○	○			○	○		
A13	充電式電池識別マーク(スリープロマーク)							○	○	D6	安全マーク(Sマーク)					○	○				
A14	国際エネキ-スタ-ロコ(エナジ-スタ-)							○		D7	SCマーク							○			
B1	JASマーク	○	○	○	○	○	○	○	○	D8	甲種電気用品	○	○	○	○	○					
B2	有機JASマーク							○	○	D8'	乙種電気用品				○	○					
B3	生産情報公表JASマーク							○		D9	都市ガス検定合格マーク				○	○	○				
B4	特定保健用食品(トクホマーク)							○	○	D10	LPG検定合格マーク				○	○	○				
B4'	特殊栄養食品	○	○	○	○	○				D11	消防マーク							○			
B5	特別用途食品								○	D12	適マーク							○			
B6	JHFAマーク								○	D13	ガス用品検査合格証							○			
B7	飲用乳公正マーク						○	○		D14	液化石油ガス機器検査合格証							○			
B8	Eマーク								○	D15	石油燃焼器具のマーク							○			
B9	冷凍食品認証マーク			○				○	○	E1	共遊玩具 盲導犬マーク								○	○	
B10	HACCP							○		E2	共遊玩具 うさぎマーク									○	○
B11	調理法を説明するための統一マーク							○		E3	シハ-マーク								○	○	
B12	JHPマーク(表示容器マーク)			○	○	○				F3	ジャドママーク									○	○
B13	地域食品認証マーク							○			消費者警告図記号							○		○	
C1	JISマーク	○	○	○	○				○												
C2	ウールマーク	△	△	○		○	○														
C4	Qマーク		○	○		○	○														
C5	SEKマーク								○												
C6	防災ラベル								○												
C7	Gマーク(グッドデザインマーク)								○												
C8	CPマーク								○												
C11	洗剤の警告マーク								○												
C13	家庭用計量器マーク	○	○	○	○	○															

た。第5次改訂施行期間では、マークに関わる各省庁・団体が明記されているのが特徴的である。この時期の掲載マーク数は9→11→15と漸増した(6次改訂施行時期もほぼ同じ掲載マーク数である)。また、「技術・家庭」という教科の性格からか、安全性に関する表示(D群)多く見られた。中学校でも、小学校と同様に環境関連施策が施行された7次改訂以降に環境に関する表示の掲載が増加した。とくに、2000年のA社の教科書では、第6次改訂までの特徴を併せ持ち、教科書に掲載されたマーク数は31(消費者警告図記号を含めて)と倍増した。さらに、2007年発行のA社の教科書は、掲載マーク数が43と2000年版の掲載マーク数を凌駕し、環境に関するマーク以外にも他領域にわたり、新たなマークが紹介された。同年発行のB社の教科書(掲載マーク数が31)と比較すると、共遊玩具、シルバーマーク、ジャドママークが新たに加わっている点は共通しているが、A社は環境表示、繊維製品に関するマークをより多く掲載したため、掲載数の違いが生じたといえる。

そして、中学校家庭科教科書でのマークの取り上げ方の特徴として、「領域横断的扱い」のほかに、「消費者の権利」と関連させた構成が挙げられる。例えば、本文で「商品を選ぶ時に、よい選択の手がかりになるのが商品についているマークや絵、説明文などによる表示です<sup>10)</sup>」と述べられた後、具体的に各種マークの一覧が掲載されるレイアウトになっている。

最後に、高等学校の「家庭一般」(~2002年)、「家庭総合」(2003年~)教科書で掲載されたマークを見ると、中学校の教科書で掲載されるマーク数よりも、掲載数は少なかった(表5)。なお、表5最上部の○数字は以下の学習指導要領改訂施行時期<⑧第8次(1963-72), ⑨9次(1973-81), ⑩10次(1982-1993), ⑪11次(1994—2002), ⑫12次(2003—現在)>を表す。先述したように第10次学習指導要領改訂施行期まではC社の教科書を用いる。第10次改訂施行期までは、掲載マーク数が中学校「技術・家庭」の教科書よりも8→6→6と

少ない。また、小学校・中学校で取り上げられた取扱い絵表示の記載もあまり多くない。第10次改訂施行期までの分析対象の教科書がA社ではなく、C社という違いからこの結果になったとも考えられるが、第11次改訂施行期のA社の「家庭一般」の教科書でも掲載マーク数が9つだったので、この時期までの「家庭一般」の教科書の傾向といえるかもしれない。

教科書でのマークに関する記述を見ると「消費生活の合理化」という項目の中で、「一定の基準や品質基準にあっていることを示すJISJAS, その他のマークや品質表示が義務付けられているので、これらを手がかりに商品を選ぶようにすればよい<sup>11)</sup>」と説明され、中学校までと同じように、購入の際の目安としてマークの表示に全幅の信頼を寄せた表現になっている。

第11次改訂施行期のA社の教科書では、小学校、中学校で増えた環境に関するマーク数もエコマークのみだったが、第12次改訂施行期である2007年の教科書では、掲載マーク数が21(A社), 32(B社)と環境に関するマークを中心に伸びた。高等学校では、マークそのもの自体よりもマークをつける根拠・背景となる法律に関する記載が見られ、冒頭で言及した「消費者基本法」や「循環型社会形成推進基本法」などの諸法のあらましについて言及されている。

以上、表3~5(小~高等学校)の比較から、中学校段階で最も多くのマークが掲載され、体系的にマークに関する学習内容が組まれており、2000年代以降、マークの掲載数が全学校段階で飛躍的に伸びたことが明らかとなった。この結果は、環境に関するマークの掲載数の増加のほか、福祉、情報に関するマークなど、多領域にわたるマークが掲載されるようになったためである。また、教科書の記載内容から、商品に付けられているマークは購入の際の目安(環境に関するマーク掲載以降は購入一廃棄の目安)、という取り扱いが小~高等学校で一貫していた。

表5 高等学校「家庭一般」「家庭総合」の教科書に記載されたマーク

(○=マークの名称紹介あり \*マークの名称紹介あり(一部) △=マークの掲載のみ)

学習指導要領改訂施行時期		⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	学習指導要領改訂施行時期		⑧	⑨	⑩	⑪	⑫		
番号	発行年 マークの名称	家庭一般			家庭総合			番号	発行年 マークの名称	家庭一般			家庭総合		
		C社		A社	B社		C社			A社	B社				
		1971	1979	1982	2002	2007	2007			1971	1979	1982	2002	2007	2007
A2	プラスチック製容器包装識別マーク					○		C1	JIS マーク				○		
A3	スチール缶材質識別表示マーク					△		C2	ウールマーク					○	
A4	アルミ缶材質識別表示マーク					△		C3	カーマーク・レド					○	
A5	PETボトル識別表示マーク					△		C6	防災ラベル				○	○	
A6	エコマーク				○	○	○	C7	Gマーク (グッドデザインマーク)		○				
A7	グリーンマーク						○	C9	Sマーク					○	
A8	リターナルプルびんマーク						○	C10	LD マーク					○	
A10	省エネ性マーク						○	C12	オーガニックコットン					○	
A11	再生紙使用マーク (アールマーク)						○	C13	計量器検定証印		○				
A12	牛乳パック再利用マーク (ハッパマーク)						○	C14	洗たく堅牢染証票	○					
A13	充電式電池識別マーク (スリープロマーク)					△	○	C15	グリーンブラ					○	
A14	国際エネルギースター ロゴ (エジスター)						○	C16	性能表示マーク					○	
A15	PETボトル再用品マーク						○	取1	洗いか	*		△	*	*	○
A16	省エネ性マーク						○	取2	絞るか	*		△	*	*	○
A17	携帯電話・PHSなどの 回収用統一ステッカー						○	取3	干しか	*		△	*	*	○
B1	JAS マーク		○				○	取4	アイロンのかけか	*		△	*	*	○
B2	有機 JAS マーク						○	取5	塩素漂白の可否	*		△	*	*	○
B4	特定保健用食品 (トクホマーク)					○	○	取6	ドライクリーニング	*		△	*	*	○
B4'	特殊栄養食品	○						取7	ISO による取扱絵表示					○	○
B5	特別用途食品						○	D4	SG マーク					○	
B6	JHFA マーク						○	D5	ST マーク						○
B8	E マーク						○	D8	甲種電気用品		○				
B9	冷凍食品認証マーク		○					D8'	乙種電気用品		○				
								E1	共遊玩具 首導犬マーク						○
								E2	共遊玩具 うさぎマーク						○
								F1	オンラインマーク						○
								F2	プライバシーマーク						○
									消費者警告図記号				○	○	

2. 大学生のマークの認知度

次に、高等学校までに学んだマークに関する知識が、日常生活でどのように活用されているのか、時間をおいてどのように定着したかを見るために、大学生を対象にマークの認知度に関する質問紙調査を実施した。大学3・4年生が家庭科を学んだ時期は、小学校（前学習指導要領施行期＝8次）、中学校（前

学習指導要領施行期＝7次）、高等学校（前／現行学習指導要領施行期＝11／12次）にあたる。よって、家庭科教科書にマーク掲載数が増えた時代に家庭科教育を受けてきた層と考えられる。

(1) 認知度の高かったマーク

表6上表は、「商品にマークがついているのを見たことがある」の上位10位を示したものである。

表6 学生のマーク認知度 (N=40)

「商品にマークがついているのを見たことがある」の回答率が高かったもの(%)

記号番号	マークの名前	商品にマークがついているのを見たことがある	マークの紹介なら見たことがある	合計
A1	紙製容器包装識別マーク	100.0	—	100.0
A3	紙製缶材質識別表示マーク	100.0	—	100.0
A4	アルミ缶材質識別表示マーク	100.0	—	100.0
A2	プラスチック製容器包装識別マーク	97.5	2.5	100.0
A5	PETボトル識別表示マーク	97.5	2.5	100.0
A6	エコマーク	97.5	2.5	100.0
B4	特定保健用食品(トクホマーク)	90.0	7.5	97.5
A7	グリーンマーク	85.0	15.0	100.0
B1	JASマーク	75.0	20.0	95.0
B7	飲用乳公正マーク	67.5	2.5	70.0

「商品にマークがついているのを見たことがある」の回答が「0」だったもの

記号番号	マークの名前	商品にマークがついているのを見たことがある	マークの紹介なら見たことがある	合計
D5	STマーク	—	20.0	20.0
D2	PSCマーク	—	7.5	7.5
B6	JHFAマーク	—	5.0	5.0
A10	省エネ性マーク	—	2.5	2.5
E1	共遊玩具 盲導犬マーク	—	2.5	2.5
E3	シルバーマーク	—	2.5	2.5
A8	リターナルブルびんマーク	—	—	0
C8	CPマーク	—	—	0
D1	SFマーク	—	—	0
F1	オンラインマーク	—	—	0

10個のマークのうち、7つを環境に関するマーク(分類A)が占めた。「商品にマークがついているのを見たことがある」の回答率はほぼ9割以上であり、「マークの紹介なら(本やインターネットで)見たことがある」を含めると100%である。また、これらのマークは分類Aの中でも教科書掲載率が高いのが特徴的である。そのほか、大学生に認知度の高かったマークは食品に関する表示(分類B)で、「特定保健用品(トクホマーク)」、「JASマーク」、「飲用乳 公正マーク」である。これらも分類Bの中では教科書で言及され

ることが多い。

(2) 認知度の低かったマーク

次に、「商品にマークがついているのを見たことがある」の回答が皆無だったマーク10種類から、認知度の低かったマークの特徴を見ていく。表6下表に示すように、とくに分類Dの安全性に関する表示(STマーク、PSCマーク、SFマーク)、分類Eの福祉に関する表示(共遊玩具 盲導犬マーク、シルバーマーク)の認知度が低調である。分類Eについては、比較的最近になって教科書に掲載されているので、学習経験がなかったことが理由として考えられるが、分類Dの安全性に関するマークは、中学校の教科書で比較的ふれられる機会が多いものである。例えば、STマークは回答者の1/5が「マークの紹介なら見たことがある」と回答しているが、実際の商品購入場面でマークと商品を確認するという経験がなかった/忘れてしまった、と考えられる。認知度の高かった分類Aの中で、「省エネ性マーク」、「リターナルブルびんマーク」の認知度が低かったのは、商品にマークが付けられている位置がわかりにくかったことが推察される。「リターナルブルびんマーク」を例にとると、びん自体にマークが付けられているため同色になり、目立ちにくい。よって、マークの存在を知らない場合、目に留まらないのかもしれない。

また、表6の下表には掲載していないが、「商品にマークがついているのを見たことがある」「マークの紹介なら見たことがある」の合計値が低かったマークは、「国際環境マーク」(A14)15.0%、「プライバシーマーク(F2)」5.0%、「Qマーク(C4)」「SEKマーク(C5)」「共遊玩具 うさぎマーク(E2)」2.5%であり、一部を除いて比較的最近になって使用されるようになったマークが多い結果となった。

(3) マークの意味の理解

表2に挙げたマークについて、さらに具体的に知っている事柄を自由記述によって回答を得た。表7は表6に示した「商品にマークがついているのを見たことがある」の回答率上位/下位10位の回答内容である。ここでの自由回答記述は複数回答とした。

表7 学生が認知する各マークに関する情報 (複数回答)

「商品にマークがついているのを見たことがある」の回答率が高かったマーク ( ) 回答人数

マークの名前	「見たことがある」と回答した学生が書いたワード		見たことがないと回答した学生が書いたワード
	商品名	商品名以外	
紙製容器包装識別マーク	ノート(15), 再生紙(8), 消しゴムのケース(8), 牛乳パック(4), 紙パック(4), お菓子の箱(3), シャープペン芯の箱(2), トイレトイレットペーパー(2), ｶﾞﾝｺﾞ, 日焼け止めｸﾘｰﾑの容器, ﾌﾙｰﾁの箱, 本	リサイクル(2)	
ｽﾃｰﾙ缶材質識別表示マーク	缶ｼﾞｬｰｽ(6), 缶ｺｰﾋｰ(5), お茶の入った缶	ｽﾃｰﾙ缶(26), リサイクル(2)	
ｱﾙﾐ缶材質識別表示マーク	缶ｼﾞｬｰｽ(8), 缶ﾋﾞｰﾙ(2), ｺｰﾗ(2), ｶﾞﾝｶ(2)	ｱﾙﾐ缶(26), リサイクル(2)	
ﾌﾟﾗｽチック製容器包装識別マーク	消しゴム(5), ｳｯﾄﾞﾎﾞｯﾄﾙ(5), 修正液(4), ｷｯｯｯｯｯｯｯｯ(3), シャープペンの芯のケース(2), のり(2), ｴｯｯｯｯの容器, 食品ﾄﾚｲ, ｼﾞｬﾝﾌﾟ-ﾎﾞｯﾄﾙ(2), ｺﾝｸﾘｰﾄの洗浄液, ｴｯｯｯの容器, ｶﾞﾝの箱, ｶﾞﾝｺﾞ	ﾌﾟﾗｽチックの容器・もの(15), リサイクル(2)	
PETﾎﾞｯﾄﾙ識別表示マーク	ｳｯﾄﾞﾎﾞｯﾄﾙ(35)	リサイクル, 再利用できるもの?	
エコマーク	ノート(15), トイレトイレットペーパー(3), シャープペンの芯のケース(2), 洗剤(2), ペン(2), 鉛筆, 蛍光ペン, ｶﾞﾝｺﾞ	エコマーク(14), 再利用されたものについている(5), リサイクル, 燃やしたり捨てたりしても, 地球に悪影響を与えない商品についている, 地球にやさしい素材でつくられたもの	
特定保健用食品 (トクホマーク)	ﾊﾙｼﾞｱ(13), ｺｰﾗ(7), 黒ｶｰﾛﾝ茶(7), ﾔﾙﾄ(6), ｴｯｯｯ(2), ﾏﾞﾘﾝ(2), 健康食品(2), ﾏﾞﾘﾝ ﾏﾞﾘﾝ, 油, ﾏﾞﾘﾝｼﾞｬｰｽ, ﾏﾞﾘﾝ	健康によいｲﾃﾞｰｼﾞ(2), 特定保健用食品マーク, 健康食品, 健康によいと厚生労働省が認めたもの	特定保健用食品
グリーンマーク	ノート(17), ﾏﾞﾘﾝ, 菓子類の箱	グリーンマーク(8), リサイクル, 環境にやさしいもの	
JASマーク	ｼﾞｬｰｽ, 醤油, 味噌	ｼﾞｬｰｽ(9), 安全なｲﾃﾞｰｼﾞ	
飲用乳公正マーク	牛乳(16)	公正マーク(3), 公正取引委員会公認のマーク?	

「商品にマークがついているのを見たことがある」の回答が「0」だったマーク

マークの名前	「マークの紹介なら見たことがある」と回答した学生が書いたワード		見たことがないと回答した学生が書いたワード
	商品名	商品名以外	
STマーク	おもちゃ(6), 車(2)	STマーク, 安全なｲﾃﾞｰｼﾞ	
PSCマーク	家電製品(2)		
JHFAマーク			健康によさそうな食べ物ﾊﾟｯｸｰｼﾞについていそう
省エネ性マーク			エコによさそうな商品?, ｲｰﾌﾟﾗｽ?
共遊玩具 盲導犬マーク			「犬を大切に」マーク, 子ども向けの製品
シルバーマーク			
リターナルﾌﾞﾙｰﾋﾞﾝｸﾞ			リサイクル品?
CPマーク			パソコン?
SFマーク			SF映画?
オンラインマーク			ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾓﾝﾗｲﾝ ﾓﾝﾗｲﾝ 許可, ﾓﾝﾗｲﾝ

表7からわかるように、回答率が高かったマーク（表7上表）については商品名、商品以外の事柄が複数書かれていることがわかる。また、商品名として挙げられているものは学生が日常生活で使用しているものが大半である。一部事実誤認（例えば、飲用乳公正マークの管理主体名など）や表現不足（プラスチック製容器包装識別マークでの「消しゴム」→「消しゴムを包装するフィルム」）が見られるものの、概ね事実誤認は少ない。

一方、表7下表の認知度が低かったマークを見ると、「マークの紹介なら見たことがある」で回答があった項目では、一部事実誤認（STマークの「車」）が認められた。「マークを見たことがない」調査対象者がマークの意味を類推した回答では、類推が当たっている回答もあるが、全体的な傾向として、マークの意味を類推しにくいことがうかがわれた。

#### IV. まとめと今後の課題

本研究は、1970年代以降に発行された小・中・高等学校家庭科の教科書に掲載されたマーク／マークに関する学習の特徴を探った。その結果、①中学校段階で最も多くのマークが掲載され、体系的にマークに関する学習内容が組まれている、②マークは購入の際の目安（環境に関するマーク掲載以降は購入一廃棄の目安）、という取り扱いが小～高等学校で一貫している、③A・B社の記載内容比較から、教科書会社によって掲載されるマーク数に違いはあるが、掲載される領域は似通っている、④2000年代以降、マークの掲載数が全学校段階で飛躍的に伸びた、⑤④の結果は、環境に関するマークの掲載数の増加が寄与したほか、福祉、情報に関するマークなど、さらに多領域のマークが掲載されるようになった、ことを確認した。

次に、2007年に使用されている小・中・高等学校家庭科の教科書に掲載されたマークを大学生がどの程度認知しているかを質問紙調査から検討したところ、「環境」に関するマークの大学生の認知度は相対的に高かった。そのほか、教科書に掲載されていたり、日常生活で使用する機会の多い商品に付け

られていたり、CMでよく目にしたりするマークも認知度が高い傾向にあった。しかし、教科書に掲載されることが多いマークであっても、実際の商品にマークがついているのを見たことがない場合は、認知度が低下したり、イメージの誤認も認められた。但し、本研究の調査対象者数は40名と少数だったので、今後対象者を増やした追調査を実施・検証したい。

冒頭に述べたように、マークに関する学習は長きに渡って家庭科教育における消費者教育の教材として実践が積み重ねられてきた。しかし、商品やサービスに付けられるマークは、法律の制定、業界の自主基準の設定や改正に伴って、新たに付け加えられたり、改廃が行われたりするため、「マークの名称を覚える」だけの学習は、マークに関する学習がねらう目的にかなうものとはならない。例えば、大学生対象の調査で認知度の高かった「特定保健用食品（トクホマーク）」の場合、以前は「特殊栄養食品制度」だったので、制度変更があった1996（平成8）年以前の教科書では「特殊栄養食品マーク」が掲載されている。ほかにも、マークのデザインが変更されたり（JISマークなど）、名称が変更されたりしているマークもある。今後、経済のグローバル化に伴う国際基準化で、新たなマークの創設やデザインの変更がさらに生じると考えられるが、多くの人がある意味を類推できる「わかりやすさ」の工夫がマークを作る側にも今後さらに求められるであろう。このことは、調査票で図示したマークを「見たことがない」回答者が、マークの意味を類推しにくかったという調査結果からも、その必要性が裏付けられる。

そのほか、マークの学習をややくしくする背景には、マークの付与で消費者に保証される品質や補償の有無がマークによって差があるため、わかりにくいことである。大学生対象の調査では安全性に関するマーク（分類D）の回答率が低かったが、中には金銭等による補償を示すマークも含まれていた。以上のことから、1970年代の小学校の教科書に掲載されていた、「何のためにマークが付けられたのか」という背景から、「消費者の権利と責任」を捉

え、消費者と生産・流通を担う社会との関わりに迫ることが、学校教育段階で達成できることを改めて確認したい。また、大学生対象の調査では、普段使用したり目にしたりする商品に付けられたマークの認知度が高かったことから、日常生活に結びつけた学習の効果を再確認できた。その一方で、「廃棄（あるいは再利用）」のための情報（環境に関する材質識別表示）の読み取りが必ずしも正確ではなかったことから、「廃棄（あるいは再利用）」という生活行動とマークの活用を結びつけたこれまでの家庭科授業実践分析を今後試みたい。

#### <引用文献>

- 1) 消費者基本法, 2004
- 2) 内閣府国民生活局. 消費者教育の総合的推進に関する調査研究報告書. 2007
- 3) 田結庄順子. “消費者教育について”. 戦後家庭科教育実践研究. 松戸市, 梓出版社, 1996, p.288
- 4) 前掲書 3), p288
- 5) 国民生活審議会消費者政策部会. 消費者教育の体系的推進について. 2007
- 6) 斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 6. 東京, 開隆堂, 1977, p.52
- 7) 斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 6. 東京, 開隆堂, 1983, p.21
- 8) 櫻井純子ほか. わたしたちの小学校家庭科 5. 東京, 開隆堂, 2000, p.21
- 9) 斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 6. 東京, 開隆堂, 1986, p.4
- 10) 佐藤文子, 渡辺彩子ほか. 新編新しい技術・家庭家庭分野. 東京, 東京書籍, 2007, p.204
- 11) 松平友子ほか. 家庭一般. 東京, 中教出版, 1982, p.39

#### <分析で使用した教科書>

引用文献 6) - 9) のほかに、斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 5. 東京, 開隆堂, 1977, 62p., 斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 5. 東京, 開隆堂, 1980, 64p., 斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 6. 東京, 開隆堂, 1980, 64p., 斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 5. 東京, 開隆堂, 1983, 64p., 斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 6. 東京, 開隆堂, 1983, 64p., 斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 5. 東京, 開隆堂, 1986, 64p., 斎藤健次郎ほか. 小学校家庭科 6. 東京, 開隆堂, 1986, 64p., 櫻井純子ほか. わたしたちの小学校家庭科 6. 東京, 開隆堂, 2000, 49p., 櫻井純子ほか. わたしたちの小学校家庭科 5・6. 東京, 開隆堂, 2007, 101p., 渋川祥子ほか. 新編新しい家庭科 5・6. 東京, 東京書籍, 2007, 101p.

引用文献 10) のほかに、全国職業教育協会. 技術・家庭 女子用 1・2・3. 東京, 開隆堂, 1972, 185p. (各分冊), 全国職業教育協会. 技術・家庭 女子用 1・2・3. 東京, 開隆堂, 1975, 185p. (各分冊), 全国職業教育協会 渡辺茂編. 技術・家庭 女子向き 1・2・3. 東京, 開隆堂, 1978, 191p. (各分冊), 渡辺茂編. 技術・家庭上. 東京, 開隆堂, 1981, 207p., 渡辺茂編. 技術・家庭下. 東京, 開隆堂, 1981, 203p., 鈴木寿雄編. 技術・家庭上. 東京, 開隆堂, 2000, 230p., 鈴木寿雄編. 技術・家庭下. 東京, 開隆堂, 2000, 191p., 中間美砂子編. 技術・家庭 家庭分野. 東京, 開隆堂, 2007, 231p.

引用文献 11) のほかに、松平友子ほか. 家庭一般最新版. 東京, 中教出版, 1971, 256p., 松平友子ほか. 改訂新版 家庭一般. 東京, 中教出版, 1979, 264p., 金田利子ほか. 家庭一般 明日の生活を築く. 東京, 開隆堂, 2002, 215p., 金田利子ほか. 家庭総合 明日の生活を築く. 東京, 開隆堂, 2007, 247p., 牧野カツコほか. 家庭総合 自立・共生・創造. 東京, 東京書籍, 2007, 239p.